

台湾・台北市と文化の交流

26日、杉並区と台湾台北市にある台湾国立戯曲学院との間で、相互交流を推進する宣言書を取り交わしました。これは、杉並区の高円寺で昭和32年から開催されている「東京高円寺阿波おどり」の台湾公演に合わせて行われたもので、今後、それぞれの地域の市民が参加する文化・芸術の相互交流をさらに推進していくこととしました。

杉並区と台湾台北市の交流は、平成22年10月、杉並軟式野球連盟から、野球技術の向上や青少年の健全育成を目的に、「日本同様に、野球が盛んな台湾と、ぜひ交流したい」という要望が出され、翌年に台湾で中学生による野球交流が始まりました。その後は、開催地を交互に変えて、中学生の野球交流を続け、健全なスポーツ精神を養うとともに、異文化理解・国際理解を深める機会としてきました。

こうした交流を背景に、今後も親善野球大会を安定的・継続的に実施し、さらには、文化・教育などの分野においても、幅広い交流を進めていくため、平成25年12月28日に台湾政府（体育署）、台北市（教育局）、財団法人救国団、杉並区の四者で、交流推進宣言書を取り交わしました。この宣言により、相互の中学生の国際交流、国際親善、異文化理解、国際理解を深めると同時に、野球以外の新たな事業への展開を図っていくことが確認され、今回の台湾国立戯曲学院との宣言書にもつながりました。

東京高円寺阿波おどり台湾公演のメンバーは、踊り手・囃子60人編成です。4月25日夜には、国立台湾戯曲学院の創立58周年記念式典で最初の公演を、さらに26日夕方6時から観光客や買い物客でにぎわう慈祐宮（夜店などが立ち並ぶ観光スポット）で、1時間ほど、踊りを披露しました。今回、宣言書の相手であり公演会場ともなった戯曲学院は、主に10歳から10年間の一貫教育で京劇などの台湾伝統芸術の継承・発展を目指し、人材育成を行っています。また、学院では、獅子舞や京劇などの公演を行うなど、台北観光の人気スポットともなっています。



宣言書の取り交わしは、26日午後3時に田中良杉並区長と戯曲学院の張瑞濱校長の間で行われました。今後は、この宣言書をもとに台湾の京劇などの文化・芸術を杉並で紹介したり、高円寺阿波おどりを台湾で公演するなど、東京オリンピックの開催も視野に、区は市民レベルの交流を深めていければと考えています。

【報道機関 問い合わせ先】

区民生活部文化交流課： 電話 03-3312-2111